

空 楽 々

「
く
ら
ら
」

2018

夏



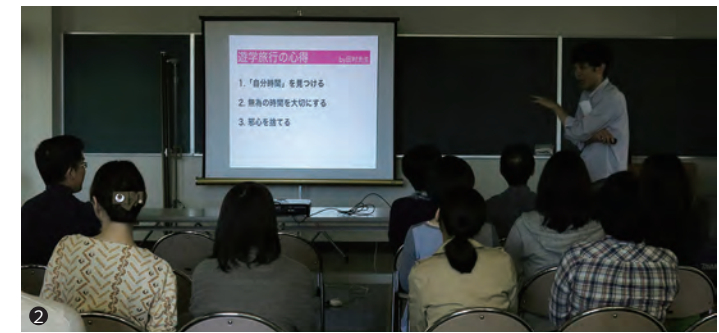
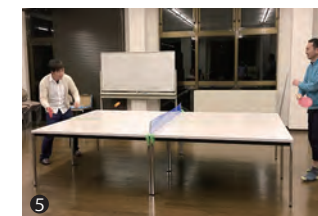
久美浜遊学旅行2018 2018年5月3日(木)～5日(土)

ゴールデンウィーク期間中の三日間、空間演出デザインコース恒例の春イベントである「久美浜遊学旅行」が久美浜セミナーハウスで開催されました。

京丹後鉄道の久美浜駅に現地集合した参加者たちは乗合タクシーに分乗して久美浜セミナーハウスに到着しました。タクシーが二台しかないので、二回に分けての移動となりました。(写真1)

全員が揃ってから部屋割りと自己紹介が行われました。今年も、入学したばかりの2018年度生やベトナムから参加された方、卒業生など、様々な方々が久美浜へ集合しました。その後は、久美浜生活のスタートとして川合先生から「久美浜での過ごし方」のレクチャーが行われた後(写真2)、夕食の時間まで海岸へ散策に出かけたり、セミナーハウス内で作業をしたり、それぞれの時間を過ごしました。(写真3、4)初日は晴天とは言え、風が強いために波が高い状況でしたが、それにもめげず作品を制作するための材料となる漂流物や貝殻、石など海岸へ拾い集めにいきました。なお、初日は夕方が満潮の時間帯だったとのことで、二日目は干潮の時間帯である午前を狙って再度海岸へ向かいました。

また、レクチャーが終わった後の講義室は椅子が片付けられ、その代わりに教員たちが製作したネットとテーブルを使った即席の卓球台がセットされました。この卓球台は、遊学旅行中のみんなの娯楽(あるいは熱い真剣勝負の場!?)として利用されました。(写真5)

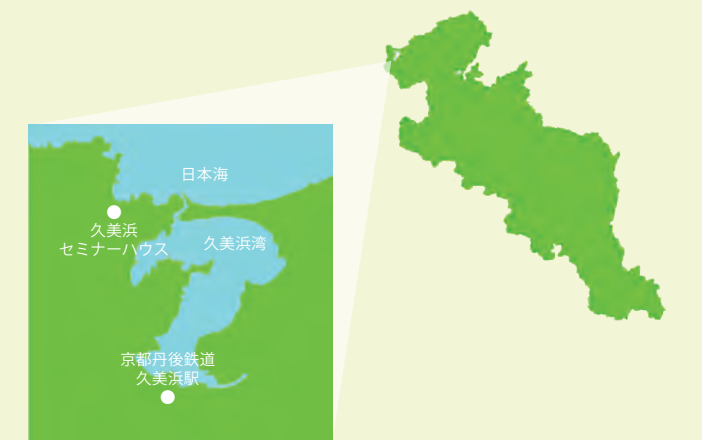


久美浜遊学旅行とは

「久美浜遊学旅行」とは、京丹後市久美浜町にある大学の施設「久美浜セミナーハウス」を貸し切って、学生・教員関係無く、それぞれが好きな事をしながら、学び遊び、そして食べて(飲んで)時間を過ごすというイベントです。最終日には三日間の成果を発表する時間もありますが、事前に準備していたことを実行するだけでなく、久美浜といういつもと違う環境で、手を動かし、足を運んでみると、遊学旅行に参加した当初の目的以外にも好奇心が生まれて、最後には予想もしなかったものを制作してしまうということもあります。勿論、食事の準備や後片付けなどの作業もみんなで協力して行いながら三日間を過ごします。

久美浜ってどこ？

久美浜町は京都府北西の京都府京丹後市の町で、日本海に面した兵庫県との県境にあります。山陰海岸国立公園と山陰ジオパークの中に位置し、日本海と汽水湖である久美浜湾を望む位置にあることから、風光明媚で、また海の幸に恵まれたところです。



2018年度 春イベントから



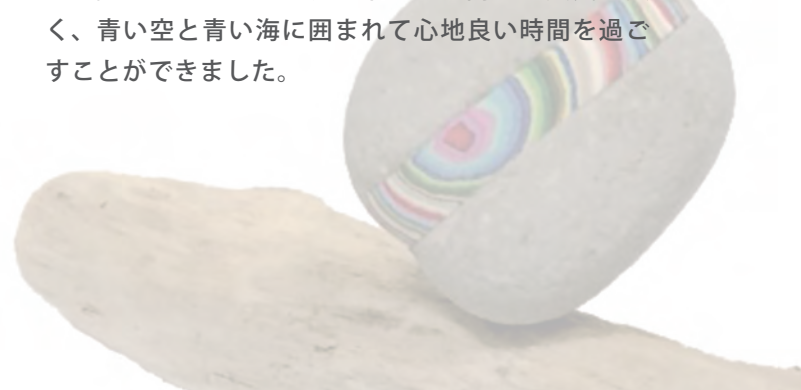
二日目は海岸で拾ってきたものを使ってオブジェやグッズなどを制作したりしながら、それぞれの時間を過ごしました。

在校生が先生となって、臨床美術のワークショップや書道教室も行われました。(写真6、7) これも様々な経験・スキルを持つ社会人学生ならではの光景です。研究室(本誌編集の森)も製本のワークショップを開催し、参加者に上製本のメモ帳を制作してもらいました。(写真8) また、教員たちも自身の制作をしたり、時折学生たちの制作へアドバイスしたりしながら、時間を過ごしました。(写真9、10)

最終日には、川合先生が主催する「2018遊学句会」が開催され、有志の投句した14の句が順番にひらかれていき、その結果、特選となった2017年度生の藤原芳恵さんには川合先生から記念品として歳時記と、特選の方に代々引き継がれていく俳句の入門書が贈られました。(写真11、12)

そして、最後の締めくくりとして三日間の成果発表が行われ、出来上がった作品や感想などを発表しました。今回は、田村先生の選出により2017年度生の渡邊早津紀さんに寺尾先生が游学旅行中に制作したトロフィーが贈られました。(写真13~15)

今年は、初日の夜にセミナーハウス周辺だけ雨が振った形跡があるという怪異現象(雨男二人のせい?)がありました。日中は三日間とも天気が良く、青い空と青い海に囲まれて心地良い時間を過ごすことができました。



遊学中の楽しみは食です!?

久美浜游学旅行中は、上田先生が料理長としてメニューを決めて自ら手料理をふるいます。勿論、その他の教員・学生も料理の手伝いをしながら皆で和気あいあいと食事の時間を楽しめます。最初の游学旅行で参加者へインパクトを与えた長茄子は今年もデカかったです!!

二日目の夜は教員・学生が焼き場担当を交替しながらのバーベキューを行いました。また、最終日の昼には上田先生特製のカレーが振る舞われ、皆で美味しくいただきました。





中銀カプセルタワービル訪問 2018年4月29日(土)

東京中央区（銀座・東銀座・築地）にて、在校生主催で中銀カプセルタワービルの訪問を中心とした空間体験ツアーが開催され、総勢 20 名が参加しました。

メタボリズム建築の代表作である中銀カプセルタワービルの保存・再生プロジェクトに尽力されている前田達之さんに案内いただき、ビルの保存・再生の現状を伺うとともに、実際に二つの部屋を内覧し、その狭小空間を体感しました。

また、同じく解体される可能性がある東銀座の電通テック本社ビルも外から見学し、重厚で存在感のある佇まいを実感しました。築地本願寺では同じコンクリート造でありながらも異彩を放つ外観と、それと反するかのような静謐な室内を感じました。ちょっと歩いていける範囲内で様々な世界観を空間体験をする機会となりました。

中銀カプセルタワー（設計：黒川紀章）

世界で初めて実用化されたカプセル建築で、1972年に竣工しました。カプセルの内装は電化製品や家具、オーディオ、TV、電話まで工場でセットされた後、現地でクレーン車によって吊り上げられ、4本の高張力ボルトのみでコンクリートコアシャフトに取り付けられました。新陳代謝、取換え、リサイクルを実現したサスティナブル建築の原型と言われています。



電通テック本社ビル（設計：丹下健三）

メタボリズム運動の始まりとも言える「東京計画 1960」に続いて丹下健三が発表した「築地開発計画」のなかで提案されたイメージを具現化したビル。計画で考えられていたコアで構成する空間というコンセプトと未完成を感じさせる外観イメージが無くなりましたが、コンクリートの梁と柱によって存在感のあるビルです。



築地本願寺（設計：伊東忠太）

1934年に鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された東本願寺・大谷派の東京別院で、「インドこそが仏教発祥の地である」との考えを建築で表現しようとしたため、インド風の意匠が用いられています。他の伊東忠太建築と同様に堂内外には様々な動物（空想のものも含めて）の彫刻が溢れており、それを探すのも楽しい空間です。



空デの学びスタート

2018年度新入生ガイダンス 空間演出デザイン概論「スターター」

過去最多入学者数となった 2018年度の学習がスタートしました。新入生に向けた新入生ガイダンスが、京都では 4 月 8 日と 5 月 12 日、東京では 4 月 15 日と 5 月 13 日、それぞれ二回ずつ開催され、多数の新入生が参加しました。

このガイダンスでは、「空デの学び方」と「空デの歩き方」という二部構成で、空間演出デザインコースの教員紹介や学習の進め方と注意点、課題で使用する道具の説明などを行いました。また、途中、グループワークとして、これからの学生生活への質問や疑問点を話し合いました。これからの学習への不安からか、最初は堅かった表情もお互いの意見を話していく中で和んでいきました。また、4月のガイダンスの際には、ガイダンス終了後に有志の参加による懇親会が開催されました。東京では 20 名ほどの新入生が参加し、親睦を図りました。

春期では一年次スクーリングとして、選択科目である空間演出デザイン概論「スターター」と、空間演出デザイン I-1「デザインリテラシー」、そして空間演出デザイン I-2「ドラフティング」の三つのスクーリングが開講されました。そのうち「スターター」は、2017年度から履修計画の立て方を確認したり、テキスト課題を実体験できる科目として始まったため、2016年度以前に入学した在校生から自分の時もやって欲しかったと言う意見もあるスクーリングです。このスクーリングを通して、頭と手、ときには身体全体を使って空間を体感・演出するという本コースの学びのスタートが切れたのではないのでしょうか。

上: 外苑キャンパス内をフィールドワークして「空間採集」中です
中: 外苑キャンパスの中庭も空間演出の場となります
下: 「勾配定規はこんな場面で有効」と説明中の上田先生



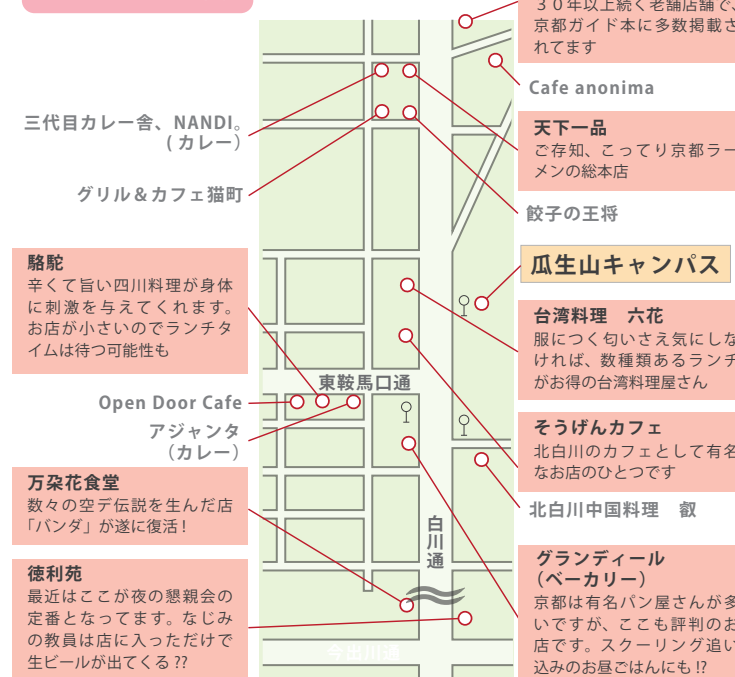
空デ生活
memo

スクーリングで京都・東京のキャンパスを利用する場合の注意点は？

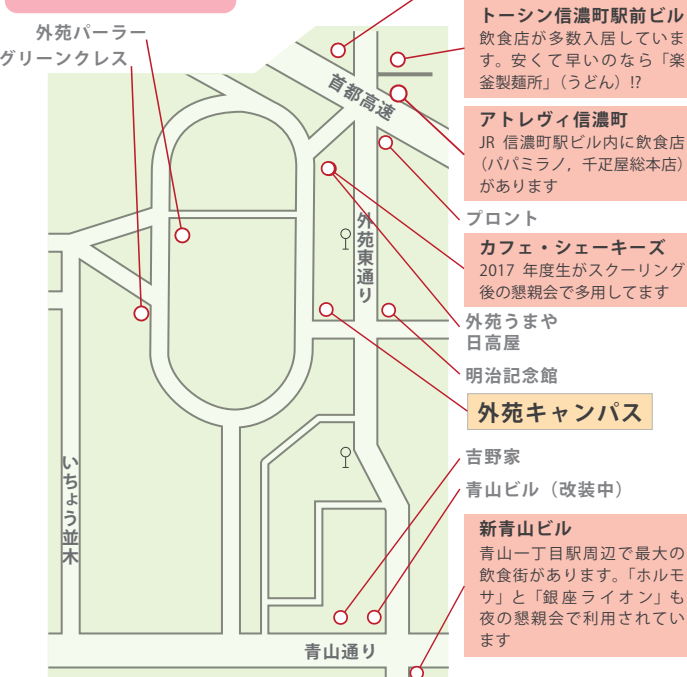
京都の瓜生山キャンパスには、キャンパス内に学生食堂やカフェ、ADストアなどの施設があるだけでなく、周囲にも画材店や多数の飲食店などがありますので、気分転換で外にランチというのも良いかもしれませんね。外苑キャンパス内は食事がとれる施設はありません。また、以前から外でランチを取れるところが少なかったのですが、東京オリンピックが近づいているせいか、以前にもまして店舗が少な

くなったので、事前に購入しておくなど、注意が必要です。なお、外苑キャンパスの1階ロビーで空デ2015年度卒業生の片岡さんがお弁当を販売する日もありますので、airUキャンパスのお知らせやキャンパス内の掲示板を確認しておきましょう。また、外苑キャンパスでは東美・上野駅前店が画材を出張販売しています。ただし、取り扱い点数が少なく、毎日開店している訳では無いので注意してください。

瓜生山キャンパス 周辺ランチ地図



外苑キャンパス 周辺ランチ地図



KUDEオープンゼミ



タイミングが合えば複数の教員と相談できます!!

オープンゼミでは、履修方法やテキスト科目、その他なんでも相談を受け付けています。気軽に相談に来てください。

■京都

日時：2018年 7月28日（土）17:00～19:00

日時：2018年 8月25日（土）13:00～17:00 ※1

日時：2018年 9月15日（土）13:00～17:00 ※2

会場：瓜生山キャンパス人間館 1F ラウンジ

担当教員：上田篤、他

■東京

日時：2018年 7月14日（土）17:00～19:00

日時：2018年 8月25日（土）13:00～17:00 ※3

日時：2018年 9月22日（土）13:00～17:00 ※4

会場：東京外苑キャンパス 1階エントランスホール

担当教員：川合健太、他

※事前申し込みは不要です。参加希望者は時間内に直接会場へお越しください。また、日程・会場が変更となる場合がありますので、コースサイトで事前に確認してください。8月、9月の開催場所については今後の『雲母』でお知らせします。

※1：「PCよろず相談会」を同時開催するとともに、当日開催中の公募展やアートマルシェ、瓜生山懇親会を巡るツアーを予定しています。

※2：「大履修相談会」を同時開催するとともに、当日開催中の大瓜生山祭のツアーを予定しています。

※3：「PCよろず相談会」を同時開催します。

※4：「大履修相談会」を同時開催します。

2018年通信教育部 真夏のイベント情報



昨年度の「アート・マルシェ」の一コマ

通信教育部の真夏イベントとして「全国公募展」とアートフェア「アート・マルシェ」が8月に瓜生山キャンパスで開催されます。また、全国公募展の最終日&アートマルシェの開催日には「瓜生山懇親会」も開催されますので、都合の合う方は足を運んでみてください。

■第9回京都造形芸術大学通信教育課程 卒業生・修了生全国公募展

会場：ギャラリー・オーブ（瓜生山キャンパス人間館 1階）

会期：2018年8月17日（金）～8月25日（土）11:00～18:00

※会期中無休

■アートフェア「アート・マルシェ」

会期：2018年8月25日（土）11:00～18:00

■「瓜生山懇親会」

会場：ギャラリー・オーブ前（瓜生山キャンパス人間館 1階）

会期：2018年8月25日（土）18:00～19:00

会費：無料

定員：200名 ※『雲母』を確認のうえ事前申込をお願いします。

編集室から



エクスカーション時には外が覆われていましたが（写真左）、今回はその全貌が!!（写真右）

- 過去最多の入学人数となった2018年度も春期が終了して、夏期に突入しました。少しづつでも学生生活に慣れて、自分なりのリズムを掴んで頂ければと思います。

- 今回の「おもてなし時間」を執筆頂いた卒業生・五十嵐さんのお誘いで、GWに栃木県野木町にある煉瓦窯を訪問してきました。ここは2013年秋のエクスカーションで訪問した場所で、そのときは修復工事中の現場を見学させていただきましたが、今回は町のボランティアの方々によるガイドで修復した姿を見学させていただきました、楽しい時間となりました。

【表紙の色 瑠璃色（るりいろ）】

空間演出デザインコース 特別講義2018

空間演出デザインコースでは、第一線で活躍されている方を講師としてお招きして、毎年夏と冬に特別講義を開催しています。参加費無料、参加申込不要で、他のコースの方・一般の方などでも聴講できます。（勿論、卒業生も）この夏の特別講義は下記の日程で開催を予定しています。

■東京（外苑キャンパス・教室は当日提示）

YOY（ヨイ）アイデアとプロセス

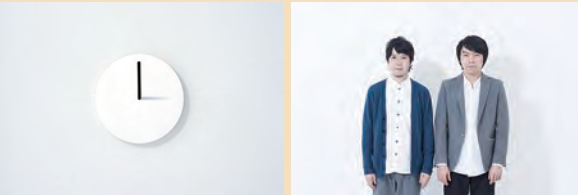
○日時：2018年9月8日（土）18:10～19:40

○講師：YOY（小野直紀先生、山本侑樹先生）

2018年4月、イタリア・ミラノで開催された世界最大規模のデザインイベント「ミラノデザインウィーク」では、7年連続・7回目の出展を果たし、国内外で多くの賞を受賞するなど注目を集めるデザインスタジオ・YOY（ヨイ）の小野直紀先生、山本侑樹先生を講師にお招きし、アイデアのつくり方と、アイデアが製品になるまでについて、デザインのプロセスをお話いただきます。ヒトの心をとらえる魅力的なモノや空間を生み出す、その秘密を覗いてみましょう。

YOYのプロフィール

2011年に小野直紀と山本侑樹によって設立された、東京を拠点に活動するデザインスタジオ。「空間とモノの間」をテーマに家具や照明、インテリアのデザインを行う。その作品は MoMA をはじめ世界中で販売され、国内外で多くの賞を受賞している。2015年より武蔵野美術大学非常勤講師。



HOME COMMING DAY 2018



昨年度は大瓜生山祭で在校生が出店で奮闘しました!!

空デエクスカーション 2018

空デの毎年恒例のイベントとなりました「空デエクスカーション 2018」

昨年度は残念ながら雨で中止となってしまった「学校法人 瓜生山学園 ホームカミングデー」の開催日が決定しました。今年度も瓜生山キャンパスを会場として、学園祭「大瓜生山祭」と同時開催で、様々なイベントが開催される予定です。「卒業生がいるお店」の出張店舗など、在校生が参加出来るイベントも開催されますので、お時間のある方は足を運んでみてください。イベント内容は 8月中旬ごろに、瓜生山学園ホームカミングデー公式サイト (<http://www.uridou.jp>) にて公開予定です。

■ホームカミングデー 2018

日時：2018年9月16日（日）（大瓜生山祭の2日目）

場所：京都造形芸術大学 瓜生山キャンパス

空デの毎年恒例のイベントとなりました「空デエクスカーション 2018」を秋に関西・関東それぞれで開催します。7月25日に発行予定の『雲母』8月号、およびコースサイトに日程・内容を掲載予定ですので、ご都合の合う方は課題制作の息抜きや気分転換を兼ねて、奮ってご参加ください。



スープで彩る

暮らしと地域

皆さんは「アール・デュー・ヴィヴル (art de vivre)」という言葉を聞いたことがあるだろうか。

「暮らしの芸術」(私の印象では「生きるためのアート」という表現が近いのだが)という意味のその言葉は、かつて南仏を旅行した時に出会った。暮らしの場も、人生も楽しいことばかりではないけれど、暮らしのそばにアートがあれば心豊かに暮らすことができるのではないか。

そんなことを意識したのは、栃木県最南端の小さな町に暮らすことになったからだ。元は都会っこ。消費を楽しんで暮らしていたが、田舎町では消費を楽しむ場がない。その代り、「余白」がたくさんあるので創造的に暮らすことができれば楽しいそうだと思ったのだ。南仏旅行から十数年の月日が流れ、その間空で創造することの楽しさを学び、自分なりのアウトプットも何となく見えてきたある時、偶然にも自宅近くにレンタル菜園を見つけた。それも年間二千元と格安。いわゆる耕作放棄地で、使ってくれば助かるとのことだった。

長年の模索がここで一気につながり、私はこの菜園を「スープ畑」と名づけ、スー

プのための食材を栽培し、人の集まる場でスープを提供する活動を始めることにした。コンセプトは「soup and peace」。いろいろな野菜や生き物が共存する畑のように、私たちの社会も、様々な個性を持った人同士が、お互いを支え合って過ごしていけるようにとの願いをこめた。

スープを提供するのは、例えば、畑のオーブンデー(みんなで種まきや収穫をする)における「スープランチ」、カフェイベントとしての「スープ食堂」や、友人を招いた「スープの会」など、様々な層の食のシーンを意識して行っている。こうしたイベントを開くことで、都会から友人たちが畑仕事をしに来たり、近所の農家さんとの小さな交流が生まれたり、ただ挨拶するだけの近所づきあいが畑の話題で盛り上がるようになるなど、これまでなかった人の流れが生まれ、滞っていた地域社会に小さな波紋を起すことができるかもしれないと感じてきている。今後も地域社会に何ができるのかを問いながら、自分自身の「生きるためのアート」としてこの活動が続けていきたいと思う。

二〇一一年度卒業生 五十嵐洋子

もてなし時間